



学校教育目標

自ら学ぶ子

「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

11月号 令和4年11月 1日

学校で学ぶ ～With コロナの今～

ふくこうちょう ながしま まゆみ
副校長 長島 真弓

「学校で学ぶ意味は何だろう?」と考えてみました。日常生活の中で、学校で学んだことが役に立っていることも多くあるとは思いますが、便利な世の中になり、学習したことを生活の中で生かす場面が少なくなっているかもしれません。また、オンラインでの授業なども体験した学年は、学校に行かなくても授業はできているのではないのでしょうか。

予測困難な時代だとよく言われています。何が起こるかわからないのは、今も昔も変わらないことですね。文部科学省が中央教育審議会の資料「2030年の社会と子供たちの未来」の中で『グローバル化や情報化が進展する社会の中では、多様な主体が速いスピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます難しくなっている。』と表現しています。そして、『学校は、教育を通じて解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育てただけでは不十分で、社会の加速度的な変化の中でも、伝統や文化をもとに、意欲をもって蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断して、自ら見出した問いの解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。』と書かれています。

「学校で学ぶ意味は何か。」一人では解決できないことや人工知能ではできないことを解決していくことではないのでしょうか。学校は、伝統や文化、いろいろな人の考え方に触れながら、いろいろな人と関係を深めたり、できた関係を保ったりしながら、学ぶ場です。学校は、子供たちの毎日の生活の場であるだけでなく、社会に出る準備の場でもあると思います。こうした学校という環境の中で社会に出る前に失敗したり迷ったりしながら、この時代を生き抜く力を身につけることに学校で学ぶ意味があると思います。